

事業名 ^{おだい}小台大通り商店街における 防災まちづくり

〔行政（東京都、荒川区）と地域住民が協同し
てつくりあげた防災まちづくり事業〕

受賞機関 東京都第六建設事務所
荒川区都市整備部

事業実施期間 昭和59年6月30日～平成11年9月

事業費 2,400百万円



施工前

技術等の特徴と評価

防災上危険な密集市街地において、避難路となる街路整備と同時に、沿道住民の積極的な協力のもと、沿道の民間建築物の不燃建築物への建替えを促進した点が評価される。本事業は、防災上の効果を高めるため、街路事業と不燃化促進を同時に施行した大都市圏で最初の事例であり、短期間で効率よく地域の安全性の向上が図られた。

さらに、住民と一体となって、防災面はもとより、親しみのある地域づくりを積極的に推進している。特に、歩道や街路樹など歩行者に配慮し、環境の改善についても地域の要望を取り入れ、また、地元と費用負担や管理方法について協定を結ぶなど、住民の積極的な協力を得ながら整備を図った点も評価される。

事業の概要と効果

荒川区は、東京23区の東北部に位置し、明治以降は、市街地化が進み、現在は、狭い道路と木造住宅が密集する下町地域となっている。

本事業は、全国でも初めての事例として、荒川区小台大通り商店街において実施され、平成11年9月には街路の拡幅事業も終了し、電線類の地中化、沿道の建物の不燃化など防災まちづくりが完成し、併せて、本事業を通じて地域住民の防災に対する意識の向上が図られた。



施工後

事業の主な内容は、建物の不燃化（沿道の建物は殆ど不燃化建物に建て替えられた（荒川区、商店街））街路の拡幅（現道11mを4m拡幅し、15mの幅員にした（東京都））、電線類の地中化（沿道の電線類は全て地中化した（東京都、関係企業））等である。

また、東京都、荒川区及び地元商店街が連携し進めた事業であり、防災の観点とともに、高齢者や身障者に配慮したまちづくり、地域に親しめるまちづくりの観点も重視し、シンボルとなる街路樹（姫りんご）の植栽やモニュメントの設置、地域の特徴を表現した絵タイルの設置なども行っており、これらの施設の建設・管理にあたっては、地元と一部費用の負担や管理方法について協定を結ぶなど、住民と行政が一体となって取り組んだ。